

「できる」看護師に育つ/育てる シミュレーション学習の方法と実践セミナー

動作が「できる」だけでなく、自分で「考える」ことができるようになるための
シミュレーション学習デザイン

1) 動作 (アクション) が「できる」

動作ができるの例として以下の動詞をあげることができます。

- ✓ バイタルサインの測定ができる (動詞: 測定する)
- ✓ 患者観察ができる (動詞: 観察する)
- ✓ 患者を車椅子に移乗できる (動詞: 移乗する)
- ✓ 胸骨圧迫ができる (動詞: 胸骨圧迫する)

動作が「できる」かどうかは演習やシミュレーションで学習者を観察することで評価できます。しかし、上に記した動作が「できる」からといって、看護実践に必要な「測定した値を評価する」「観察したことを評価し患者に何が起きているのかを判断する」「患者の状態から苦痛を予測し患者に適した方法で移乗する」「胸骨圧迫の質を評価しながら胸骨を圧迫する」に含まれる「評価する」「判断する」「方法を考える」といった「考える」動詞を使っているかどうかを判断することはできません。



2) 動作動詞と能力動詞

1) で説明したようにシミュレーション学習では、動作に関わる動詞 (動作動詞) と、評価したり判断するような考える動詞 (学習者の能力、看護師としての能力を示すという意味で能力動詞) を区別した学習デザインが必要になります。

シミュレーションでは「できる」のに、シミュレーションで学んだことが現場では活用されていないという状況はよく経験することです。この原因の1つは学習者はシミュレーションを通して動作動詞だけを選択的に学んでしまうことにあります。

3) ゴールド・メソッド

動作を行う前提として能力動詞を学ぶためのシミュレーション学習のデザインモデルです。ゴールド・メソッドでデザインしたシミュレーション学習あるいはOJTを継続することで、「できる」看護師に育つ/育てる学習システムを構築することが可能になります。

日時: 2017年12月2日 (土曜日) 9:00-17:00

会場: 東京医科大学病院シミュレーションセンター

(東京新宿) <http://team.tokyo-med.ac.jp/sim-c/>

対象: 看護学部教員、医療機関看護部などの教育担当者
上記以外の方も参加可能です。

参加費: 16,000円 (会員) ・ 24,000円 (非会員)
(教材や資料は看護教育の領域のものを使用します)

定員: 24名

インストラクター:

阿部幸恵、岡本華枝、三宮有里、山岸智子、冷水育、池上敬一ほか

主催: 日本医療教授システム学会

協力: 東京医科大学病院シミュレーションセンター

お問合せ JSISH セミナー事務局 048-940-2475

詳細・お申込みは JSISH サイト (<http://jsish.jp/eduwp/>)